

編集後記

▼お待たせいたしました。「現代宗教研究」第四十八号をお届けします。

▼第四十六回中央教化研究会議は、「三・一一後の『立正安国』を考える―復興の教化学の構築のためにⅡ』をテーマとし、原発問題を教化の問題として考えることを企図しました。前年と同一テーマを掲げての中央教研は、初めてのことです。

「第四十五回中央教研のテーマを継承した教区教研の開催を」との現宗研の呼び掛けに応じて開催された五教区の教研の報告がなされました。教区教研と中央教研との関係の在り方については議論のあるところですが、互いが刺激し合った一例となるうかとも思います。三原所長の基調講演、各分科会報告を含め、是非御一読下さい。また、この中央教研では、原発に対するアピール文を検討しましたが、未採択となりました。この辺りの経緯を含め、「宗報」(平成二十五年十二月号)所載「現宗研だより」の「原発と中央教研」を御参照いただければと思います。

▼研究ノートは、例年通り、研究員諸師のそれぞれの研究成果を収録しております。現宗研の「研究例会」に於いて発表されたものですが、現宗研内の研究調査分担によるもの、研究員個人の研究課題にのっとったものなど、現宗研の研究調査内容の多様さの一端をも垣間見ていただけるのではないでしょうか。

▼ミニ講演として、二つの講演を収録しました。

一つは、平成二十五年四月に行われた現宗研の全体会議に於ける、立正大学法学部早川誠教授の「現代からみる石橋湛山」です。早川先生は、立正大学創立百四十年記念誌『立正大学の百四十年』で「第十六代学長石橋湛山研究」の項の執筆を御担当された方ですが、三原所長の「震災後の復興の教化学のためには石橋湛山の再評価が必要」との意図から御依頼したものです。

もう一本は、五月に行われた教化センター連絡会議に於ける、朝日新聞宮本茂頼記者の「駆け出し宗教担当者から見た仏教界の常識・非常識」です。現宗研の掲げる教化学のキーワードの一つ「世間のまなざし」を考える機会にさせていただければと考えます。

▼第二十四回「法華経・日蓮聖人・日蓮教団論セミナー」は、「教団と原発―教団の意思表示を考える―」をテーマとして開催しました。

原発問題について声明を発表した教団・組織から、前全日仏事務総長戸松義晴師、曹洞宗総合研究センター主任研究員竹内弘道師、真宗大谷派教学研究所研究員武田未来雄師を講師にお迎えし、それぞれの教団・組織に於いて、コンセンサスが形成され、声明を発表するに至った背景や経緯について伺い、社会的な問題について教団としてメッセージを発することの意味、教団内の意思統一の方法について考え、教団の存立の仕方を見つめ直す機会とすべく企画したものです。御高覧ください。

▼研究・調査プロジェクト報告は、国内宗教研究Ⅰのチームよりの報告を収録しました。
(T・S生)

執筆者一覽 (敬称略・掲載順)

三原正資(現宗研所長)

岩田親靜(現宗研研究員・千葉県本休寺住職)

中村龍央(現宗研研究員・福井県大蓮寺住職)

小林康洋(現宗研研究員・山梨県円明寺住職)

鶏内泰寛(現宗研研究員・京都府常徳寺住職)

延本妙泉(現宗研研究員・福岡県妙法寺修徒)

川口智徳(現宗研研究員・京都府瑞光寺修徒)

早川誠(立正大学法学部教授)

宮本茂頼(朝日新聞東京本社文化くらし報道部)

小瀬修達(現宗研研究員・新潟県妙法寺寄在)

武田未来雄(真宗大谷派教学研究研究所研究員)

竹内弘道(曹洞宗総合研究センター主任研究員)

戸松義晴(浄土宗総合研究所主任研究員・全日仏前事務総長)

現代宗教研究 第48号

〈現代宗教研究所所報〉

平成26年3月31日 発行

編集 日蓮宗現代宗教研究所

発行所 日蓮宗宗務院

発行責任者 三原正資

〒146-8544 東京都大田区池上1-32-15

電話 03(3751)7181(代)

印刷所 ティケイ ハンデル アート

電話 048(256)4763